



勝浦ロータリークラブ

51期 THE WEEKLY REPORTS

2013-2014年度

No.06/Total 2374

例会：2013.08.23

発行：2013.08.30

R.I会長 ロン D. バートン

第2790地区 ガバナー
関口 徳雄 (浦安)

第5分区 ガバナー補佐
川名 幸雄 (千倉)

第5分区 幹事
鈴木 健史 (千倉)

第2790地区
ロータリー財団委員会
補助金小委員会 委員長
関 一憲 (勝浦)

第2790地区
ロータリー財団委員会
資金推進小委員会 委員長
伊藤 正人 (鴨川)

勝浦ロータリークラブ
会 長 中村 昇
幹 事 小林 悠紀

クラブ会報委員会
委 員 長 渡邊 ヒロ子
副 委 員 長 関 一憲
委 員 手塚 明宏
渡邊 光一

◆報告内容

8月23日 (金) ゲスト卓話
齊藤麻利奈 (交換留学生)
(例会場：ブルーベリーヒル)

◆ 本日の例会

8月30日 (金) 塩崎昌彦氏
アベノミクスへの期待と展望
(例会場：海のホテル)

◆次回例会

9月6日 (金) 会員卓話
西尾誠 会員増強委員長
例会場：東急ハーベスト勝浦

◆会長挨拶 中村昇会長



皆さんこんにちは、2週間の御無沙汰で御座います。暑い日が続いておりますが体調如何でしょうか。

昨日高校野球が終わりましたのでそのことについて一寸触れてみたいと思いますが、少し時間をいただいて話をさせていただこうと思います。

今年も第95回全国高校野球選手権大会の頂上決戦目指し、全国各県地区大会を勝ち抜き甲子園に進んできた高校球児、昨日22日をもって甲子園での高校球児による夏の戦いも終りを告げました。14日間というまさに熱い陽射しを受けながらまた熱い応援をいただきながら開催された全国大会、今年は前橋育英高校、初出場で初優勝でありました。優勝校には心から祝福のエールを送りたいものです。優勝は逃したものの素晴らしいプレーをされた高校もあり見ごたえのあった大会でした。

ところで皆さんも高校野球といえばあの一場面が目に焼き付いていると思います。甲子園球場での敗戦校となった選手達が涙を流しながら球場内の土を袋に詰めて持ち帰るシーンは、高校野球の聖地・甲子園ならではの“お約束”となっているらしい。「甲子園の土を持ち帰る」という行動のルーツを探ってみますと、1949年(昭和24年)の夏、第31回全国高校野球選手権大会における敗戦投手の行動にあったといえそうです。その大会で優勝候補と目されていたのは福岡県の小倉北高で、エース福島一雄投手は球史に残る名ピッチャー。2年前の春から6期連続で甲子園に出場し、夏の甲子園を連覇、しかも5試合連続完封をも成し遂げていたといいます。この第31回大会は、福島投手にとっては最後の夏の甲子園で、しかも三連覇がかかっていた。ところが、よく、“甲子園には魔物が棲む”といわれるように、準々決勝で打ち込まれ、そのうえ肩を痛めて9回で無念の降板、しかも、小倉北高は、延長10回に7対6でまさかのサヨウナラ負けを喫してしまったのである。この時、ベンチからホームベースのところに出てきた福島投手は、無意識のうちにしゃがみ込むと、土を一握りズボンの後ろポケットに入れた。この姿があまりにも悲しげで、大会運営委員たちの目に強く焼き付いた。当の福島投手は無意識の行動だったためにこれを忘れていたようですが、ある運営委員から「あの土を思い出にするといい」といった手紙を貰い、土を植木鉢に入れて大切にしたという。

やがて、このエピソードが広まり、敗退したチームの選手たちが土を持ち帰るようになったのだそうです。その土を見て来年の雪辱を誓うのか、あるいは後輩にその思いを託すのか、いずれにせよ、甲子園の土は青春の宝物となったことは間違いないと思います。甲子園の土そのものにも、ルーツがあります。甲子園球場が完成したのは1924年（大正13年）のこと、甲子園は海岸にも近く地質的にも白い砂が多く、白いボールが見えにくい。そこで、淡路島から黒土を取り寄せてブレンドし、野球に最適な色や硬さのグラウンドを作り上げたのだといいます。現在では、鳥取の大山山麓の土、桜島の火山灰、中国福建省の白砂など、さまざまな土が使われている。春は雨が多いので水はけがいいように砂の比率を多くし、夏は強い日差しの中でもボールを見やすいように黒土の比率を多くするなど、グラウンドキーパーが常に心を砕いているのだといいます。今話したように素晴らしい選手が生まれるにもひたすら目立たなく陰になってやっているグラウンドキーパーがいるからだ、そして郷土を愛し応援する親御さんそして母校の生徒、後輩、先輩方々の応援が一つになって表現されるからに他ならない。何事にも素晴らしい戦いの裏にはこのようにしっかりしたサポート役がいることを忘れてはいけなとつくづく感じたテレビ観戦でした。

◆委員会報告

◇地区ロータリー財団補助金小委員会 関一憲委員長



ロータリーカードについて、使った金額の0.5%がロータリー財団に寄付されます。これはカード会社が払ってくれるので大変魅力的なカードです。

領収書いらない、とか企業メリットもあります。ぜひ、皆さんにお薦めします。申し込みは千葉委員長まで。。

◇会員増強委員会 西尾誠委員長



本日、例会後に委員会を行いますので、委員のみなさん宜しくお願いします。

◆ニコニコBOX 親睦委員会 山本太郎委員長



◇自主申告 釜田英之君

スポーツ観戦を堪能した2週間でした。何と言っても甲子園には、毎年感動をもらいますが、今年は特に2年生の活躍を感じた年でした。来年も楽しみです。

◆ゲスト卓話 交換学生 齋藤麻利奈君



楽しみにしていた麻利奈のスピーチです。

1年で本当に大きく、成長してくれました。

（本当に見事な発音で、英語によるスピーチは、まるでアメリカ人の女の子のようでした。1年間アメリカでしっかり語学を身につけて帰国した麻利奈さん。楽しかった学校生活、お友達、ホストファミリーのお話をたくさん写真とともに披露してくれました）

こんにちは。そしてただいま。勝浦ロータリークラブから、長期交換学生としてアメリカユタ州に留学してきました齋藤 麻利奈です。

一年の派遣を終えて、7月19日に帰国しました。



私が派遣された所は、アメリカの北部ユタ州のウエストジョーダンという地区で、冬は、想像以上に寒く、ほとんどの住民は、モルモン教徒です。高校は、とてもマンモス校で小学生から高校生まで沢山の学生が通っていました。私は陸上部に入りました。高校でも沢山の友達が出来ました。ホストファミリーをして下さった家族もとても素晴らしい家族で別れの時は、とても辛かったです。今でも、毎日のようにメールをしています。

ロータリー活動では、月に一回オリエンテーションが行われ、8ヶ国の交換学生たちと共に素晴らしい経験をしてきました。日本人は、私一人でした。最後に交換学生と共に一か月かけて鉄道で、ニューヨーク、ワシントン、シアトル、サンフランシスコ、カルフォルニア カナダを回ってきました。忘れられない旅となりました。1年間の留学を通して、沢山の国の人たちと知り合い、アメリカを始め世界中の文化を知ることが出来ました。又、日本の素晴らしさも再確認しました。



このような、素晴らしいチャンスを下さった、勝浦ロータリークラブの方々と、私を2年にわたり見守り、ご指導いただきました勝浦ロータリークラブや地区委員の方々と学友会の方々そして、世界中のロータリアンに感謝します。ありがとうございました。



◆気仙沼水泳指導ボランティア報告書

我が勝浦ロータリークラブ、千葉県水泳連盟が後援し、国際武道大学水泳部が主催する気仙沼水泳指導ボランティアの実施報告書が提出されました。

今月8月9日に気仙沼市立松岩小学校にて実施。武道大学水泳部の馬場宏輝監督が引率し、水泳部の1年生～4年生 12名が参加。そのほか高校生が5名、他大学生1人も加わって、『子供たちに笑顔を！』を合言葉に活動してきたそうです。まだまだ復興が遅れた街で、彼らは、「水泳人として出来ること」を継続していくことが地域交流・心の復興に繋がると再確認したと報告されました。

◆出席報告 出席委員長 手塚明宏君



会員数	38名
出席者数	28名
MakeUp数	7名
欠席者数	3名
出席率	92.11%

あ

あ